

【企業支援依頼】

2024年2月吉日

協賛企業 御中

ナノ学会会長 寺寄 亨（九州大学 教授）

第22回大会実行委員長 権田幸祐（東北大学 教授）

ナノ学会第22回大会趣意書

拝啓 貴社ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、2024年5月22日（水）から24日（金）の3日間にわたり、東北大学新青葉山キャンパスにて「ナノ学会第22回大会」を開催する運びとなりました。「ナノ学会」は2002年に日本のナノサイエンスおよびナノテクノロジーの総合学会を目指して、「超微粒子とクラスター懇談会」（1997年設立）を改組・発展する形で発足致しました。本学会の使命は、基礎から応用に至るナノサイエンスおよびナノテクノロジーに関わる産学官の研究者が、従来の学会の枠を超えて分野横断的に情報・意見交換を行うことによって我が国におけるナノテクノロジー分野の学術基盤を確立し、新産業技術を創出することにあります。

ナノ学会は、「ナノ構造・物性」、「ナノ機能・応用」、「ナノバイオ・メディシン」の三部会で構成されており、シンポジウムなどの企画を通して専門的な知識の習得や情報の交換のための場を会員に提供しています。また、学会誌の発行や若手研究者を後押しするための顕彰活動を行っています。毎年一回開催されるナノ学会大会は、2003年に学会創立大会が神戸で開催されて以来、日本各地で毎年開催され、毎回数百名の方々にご参加いただいております。最先端のナノ科学技術の研究成果を持ち寄り、企業展示とともに、分野・産学横断的な人材交流や情報交換の機会を提供しています。この大会は、ナノ科学技術分野の最先端の講演に触発されることで、新しい発想や着想が生まれる可能性に満ちています。

第22回大会である本大会においては、「光とナノ科学が織りなす未来技術」テーマのもと、放射光を含む光科学とナノ科学の化学反応により、新技術の創発を促す機会にしたいと考えています。具体的には、2024年4月から運用が開始される大型放射光施設 NanoTerasu のすぐ傍に建設中の国際放射光イノベーション・スマート研究棟を中心に学会を開催します。学会期間中には、放射光を活用した研究のシンポジウムを開催し、大会中2回にわたり NanoTerasu の見学会を実施します。これらの企画を通して、ナノ研究分野の研究者や将来のナノ研究を担う大学院生や学部生に、NanoTerasu を含む放射光利活用の具体例や将来ビジョンを示し、NanoTerasu の利用を促します。NanoTerasu の認知と普及は、アカデミアと企業研究の融合致に繋がることが期待されます。

本大会開催に必要な経費は、基本的には参加者の参加登録費と協賛団体および基金団体からの資金で賄われております。経費節減のため、関係者一同あらゆる努力を重ねておりますが、開催費用の捻出に苦慮している状況にあります。このような状況を打開するため、法人の皆様のご援助をお願い申し上げます。次第でございます。いまだ厳しい経済情勢ではありますが、我が国の科学技術における「ナノ学会」の果たすべき役割をご賢察のうえ、ご支援いただきますことを、切にお願い申し上げます。本趣意書では、協賛、予稿集広告掲載、併設展示会（機器・書籍）募集書をつけております。末筆ながら、貴社、貴団体の益々のご発展をお祈り申し上げます。

敬具